

より良い親子関係講座

NO 70

「母性」と「父性」のバランス

子どもを育てていくうえで、母性と父性はとても大切だといわれています。母性というのは「優しさ、保護、ありのままに抱きしめてあげること」など、包み込むような柔らかいイメージで、父性は「規則や決まり、ルール、時間などを守らせる、正しいことを教える」など、硬くて厳しいイメージですね。母性的な要素は女性だけが持っているのではなく男性も持っています。同じように、父性的なものは男性だけが持っているのではなく女性も父性的なものを持っているのです。このように私たちは「母性」と「父性」の両方を併せて持っています。

児童青年精神医学者の佐々木正美氏は母性と父性について次のように話しています。『子どもにとっては、ありのままのその子を受け入れ、認め、そして絶対的なやすらぎを与える力が母性です。保護してくれる存在ですね。これに対して父性とは、これはしてはいけない、こうしなければならないというルールやマナーを教える力です。つまり、しつけというのは父性の部分でしているものなのです。母性はなんでも許してしまいますが、父性は許されないことを示し、制限する。いずれにしても両方をバランスよく受け取りながら人は成長し、人格を形成していくのです』

子どもをありのままに受けとめ優しく抱きしめて育てることと、してはいけないことを教え、時には厳しく制限する。まるでシーソーのような母性と父性のバランスが子どもの成長にとっても大切だということがわかります。果たしてわが家はどうかだろうと考えると、どちらかと言えば夫が母性が強く、私が父性が強かったように思います。子どもに与える順番はまず母性を先に、父性は後からなのですが、私はしつけ、つまり父性から与えてしまいました。その結果は「お母さんきらい！」と言われる羽目に……。 (皆さまはけっして順番を間違えたら、いけません！)

さて、子育て中はいろいろな場面でこの母性と父性が登場します。お母さんが子どもを叱っているとき、お父さんまでいっしょになって叱ることはありませんか？ その逆もですが、子どもにはかならず逃げ道をつくってあげることが大事です。たとえば、「叱られちゃったね。今度からどうすれば叱られないようにできるかな？ お父さん（お母さん）といっしょに考えてみようか」と、優しく話しかけてみましょう。またシングルマザーやシングルファザーの場合にも、ひどく叱った後、親子ともに落ち着いた頃にマイメッセージで次のように言うことができます。「〇ちゃんが～～するからお母さん（お父さん）すごく怒ってしまったね。～～するの良くないことなのよ。これからは～～しないようにしようね」と言いながら抱きしめます。

講座をしていると、けっこう父性の強い家庭が多いように感じます。子どもの成長にとっていちばん大事なことは「どんなことをしても親は自分を守ってくれる、愛してくれる」という安心感と信頼感ですから、くれぐれも母性（APという勇気づけと共感）を忘れないようにしましょう！

「子どもはいつも柔らかいおもちゃだけではなく、石も板も硬い床も好きなのです。また抱きしめられるのと同様、止めなさいといわれるのも好きなのです」

D・W・ウィニコット



My Dream Come True!

Picture, if you can, a large room in a Buddhist temple. There is a TV, and two women are sitting on *tatami* in front of it, equipped with books, paper and pens. One of the women is the Japanese wife of the priest of the temple, and the other is an American woman who is excited over the new parenting program she has just found on a recent visit to the U.S.

That is me and my friend, Mrs. M. I had told her about AP. A line in my diary for September 4, 1985: “Met with Mrs. M. from 10:00 to 5:30.” We would listen to a bit of the English AP tape and then she would write down the Japanese that we decided on.

As you might guess, my legs were not very happy with the *tatami*, and later Mrs. Matsuo was not happy with the content of AP. She believed that the AP principles would make children too “soft” and they would not be able to meet the strict demands of the public schools. On the other hand I believed that children need a place in their Family where they feel loved and accepted in order to meet the demands of the outside world. That, sadly, ended my first effort to get AP translated—but it was not the last. . . .

In September I called some friends to make up the first group. I wrote in my diary on 9/17/85: “Felt so happy and excited about it all that I could hardly go to sleep.” The first AP group started on 9/28/85 with eight people, mostly couples or people in intercultural marriages. AP was great for showing them a parenting model they could share. AP spread by word of mouth, and I enjoyed testing AP out with people of several nationalities during the next several months.

In one of the early groups a lovely young woman named Toshiko Nonaka came and it seemed that she and AP were a perfect fit! You know how that turned out—she has been a perfect fit as the AP director for many years now, and with you, has helped make this dream—that many Japanese Families would find encouragement from the AP parenting skills—come true.

I am looking forward to visiting Japan soon. On May 12 some of us will get together to share and talk some more about AP’s early beginnings in Japan. It will be great to see many of you again. Until then

June Seat (APJapan Founder and Friend)

夢が実現しました！

もしできるなら、お寺の広々した部屋を思い描いてみてください。そこにはテレビがあり、その前には本と紙とペンを携えて二人の女性が畳に座っています。女性の一人はお寺の住職の妻、そしてもう一人は、最近訪れたアメリカで見つけた新しい親訓練プログラムにワクワクしているアメリカ人の女性。

二人は私と友人のMさんで、Mさんは私がAPのことを話した人です。1985年9月4日の私の日記に「10時から5時半までMさんと会った」とあります。私たちは英語のAPのテープを少し聞き、彼女は私たちが決めていったことを日本語で書きとめました。

皆さんには想像できると思いますが、畳に座っている私の脚は辛くなりました。そして次第に松尾さんは、APの内容に辛さを感じました。彼女はAPの手法では、子どもたちは「優し」過ぎて、厳しい日本の学校には耐えられないだろうと思いました。一方で私は、子どもたちが外の世界の厳しさに耐えられるためにこそ、自分は愛され、受け入れられているのだと感じる家庭の中での居場所が必要だと思いました。そのようなわけで、残念なことにAPを翻訳してもらおうという最初の試みは終わったのです。しかし、それが最後ではありませんでした

9月に私はAPの最初のグループを立ち上げるために数人の友人に電話をしました。85年9月17日の日記に「そのことで眠れないほど嬉しくてワクワクしている」と書いています。最初のAPグループは85年9月28日に8人で始まりました。ほとんどは夫婦が国際結婚をしている人たちでした。APは受講者たちが共有できる子育てのモデルを見せてくれるところが優れていました。APは口コミで広がり、私は次の数か月間様々な国籍の人達にAPを試すことができました。

初期の頃のグループの一つに野中利子という名の素敵な若い女性が来ました。そして彼女とAPは完璧にフィットしたようでした！その後どうなったかは皆さんもご存じのとおりです。つまり彼女は今に至るまで長年APのディレクターとして完璧にフィットし続け、皆さんと共に多くの日本の家族がAPのスキルから勇気づけを見出すという夢が実現するのに役立っています。

私は日本訪問をとっても楽しみにしています。5月12日には皆で集い、日本での初期の頃のAPについてもっといろいろなことを分かち合ったりお話ししたりしましょう。たくさんの方に再びお会いできることは素晴らしいと思います。では、その時まで

APジャパン創設者、友人 ジューン・シート

訳：野口 紀子

福岡市 八十田 有仁子

最近の子どもの状況として私が感じるのには甘えたりない子が増えているのではないかと思います。親も毎日が忙しく子どもに向き合う心の余裕も時間もあまりなく、そしてそんな親の姿を見て早く大人にならざるを得ない子どもが増えているように思います。子どもに向き合っただけで甘えさせてあげるということは手間がかかるので、私も自分に余裕がない時はつつい怒ること、物を与えることなどでその場をやり過ごそうとしてしまうことがあります。そして自分に余裕がないので、しっかりした大人のような子どもを求めてしまいます。

でもAPを学んで甘えさせることの大切さを知り、こんな状況ではいけないと反省しています。子どもには子ども時代にじゅうぶん子どもでいさせてあげることが大切です。そのためにはたくさんたくさん甘えさせてあげなくてはと思います。

最近の親の中には手間のかかる甘えさせるということをしなくて、甘やかすことで満足している親が増えているように思います。親が先回りして子どもが失敗したり、イヤな思いをしたりすることを未然に防ぐことで子どもを護ろうとしたり、親が考える正しいレールを敷いてそれを子どもに押しつけることで子どもに不利な状況から回避させることが、子どもの幸せと考えている親が多い感じがします。そしてこの状況も忙しい毎日で親自身に余裕がなくなっているから、子どもが何を求めているのか何を必要としているのか考える余裕までなくなっているのではないのでしょうか。

私を含め、世の中の親たちはまず自分の心にゆとりを持てる生活を心がけ、心にゆとりを持って子どもと向き合うことが大切だと思います。子どもにはたくさん甘えさせ、失敗も不利な状況も含めたすべき経験をさせてやるのが大切だと思います。子育ての目標は「自立」です。側にいる間にたっぷり子どもの心に栄養を与え、いろいろな体験をさせてあげられたらいいと思います。そして私たち親が「子育てよりもたいせつな仕事はない」と思って心にゆとりを持ち子育てを楽しんでいけたらいいと思います。

八王子市 笹原 祐子

子どもがまだ2, 3歳の頃子どもを連れて講座に参加した時のことです。その頃の私はAPを学ぶために一生懸命になっていました。約2時間の講座は学びに来る人にはたいせつな時間ですし、幼い子どもにとってはとても長い時間です。わが子が時折ぐずりながらも、私はAPの学びを実践し、子どもの対応をしていました。そのような状況の中、いつしよに参加していた方が自分の子どもに食べ物を与え始めました。とうぜん、それを見た私の子どもは、自分も欲しいと要求してきました。私は子どもの気持ちを受け入れながらも、毅然とした態度でいました。その結果、子どもはきちんと待つことができ、私も最後まで講座を聞くことができ、わが子をほめたことを思い出しました。家庭から一歩外へ出たとき、家で許されているわがままな行動がそのままなされているという光景を目にしますが、公共の場では私はそうしないように考えています。なぜなら子どもに我慢させなければいけない状況もあることを教えるためです。

APを学んできて私はいろいろ実践してきました。これからはAPリーダーとしてこのような状況が起きたとき、相手の気分を害さないように声かけができそうな気がします。そして相手に気づいてもらえることができれば嬉しいです。私は家庭教育では子どもとのコミュニケーションが大事だと思います。子どもと目線を合わせ、子どもの意見にしっかり耳を傾けそして共感し、子どものありのままを認めてあげるのです。親が変われば、子どもも変わることを実感してきました。APに出会えてとても良かったです！！



タイムの花が
咲きました



星の形のボリジの花
サラダの彩りに

💖 親子でAP! 💖 ①

それは受講希望者さんの娘さん（高2）の一言から始まりました。

「保育士になりたいから、私もAPを受けたい！」

親と一緒にAPを学ぶことで、親を責める事にならないか、内容を理解できるのかとためらっていましたが、AP＝コミュニケーション講座でもあることから、野中さんにご相談しながら思い切って親子で受講していただく事になりました。また、その話を聞いた私の子ども達（高2男子、中3女子）も興味を持ち、一緒に受講することに・・・。

講座は、親子関係だけでなく、兄弟関係、友達関係、学校での出来事などに関連づけ、わかりやすい言葉ですすめました。私のためらいとは裏腹に、親に対して責めることなく「あの時はこうだったね。」と親子で様々な出来事を思い出しながら「今度はこうすれば良いね。」と、とてもアットホームな講座となりました。途中からもう一人の受講者さんの娘さん達（中2、小5）も加わり、大人よりも子どもの数が多いという賑やかな講座となり、大人も子どもも平等な中での心地よいディスカッションが繰り返されました。子ども達がディスカッションに加わったからこそ、親がなるほど！と理解できた事もたくさんありました。そして講座も終盤に差し掛かった頃、私の子ども達に変化がある事に気づきました。

兄妹がとても仲良くなった事、お手伝いをすすんでするようになった事、私の話をよく聞いてくれ、私に共感してくれるようになった事など。まさに親子が同じ船に乗って旅をしている、絆のようなものを感じました。子どもと一緒に習いごとをするなんて、なかなかできない年頃です。親子が同じ空気感の中で同じ事を学ぶという機会は、大変貴重な時間だと思いました。そして親子で受講することで、親は子どもをコントロールすることなく子育てができ、お互いに協力し合える関係になります。親が一生懸命子育てを学ぶ姿を子どもに見せる事も、ひとつの愛情表現に繋がると思います。ぜひ「親子でAP！」試してみてください！（千葉県 APリーダー 溝口 佳子）

💖 このたびは親子でAPを学ばせていただき、ありがとうございます。親子で受ける事により、お互いの気持ちに気づく事ができ、今まで聞けなかった話を聞けたりしました。そして子ども、子どもと思って接していましたが、APを学んでいると考えが大人で、私の方がまだまだだなあと思うこともあり、楽しく深い学びができました。

私の中で不思議な現象があり、娘（発達障害）にはAPの中の少しはできて接することができているように感じていたのですが、息子には全くできず、昭和初期の父や母の様に押し付けて上から目線でものを言い、自分の考えが一番正しいから言う事を聞きなさいと、独裁的方法になっていました。息子には多少ですが対応を変えてきていますが、まだ抜ける事ができません。講座が終わっても復習し、しっかりと対応していかれるようにしたいと思います。APは子ども以外でも相手の話を聴く時や、社会でも役に立てるので、学ぶことができるとても楽しかったです。幼い子を育て中の弟夫婦にも、何か相談があれば伝え、その他にも悩める親に伝えていきたいと思っています。親子で受講する許可をくださった野中さんに感謝しております。ありがとうございました。（K子）

💖 私はAPに出会えてよかったです。私は将来保育士になりたいと思っています。私がとてもいいなあと思ったのは「問題と責任の所在、誰の問題か」です。子どもの問題は子どものものです。前は弟とのケンカでも自分では何もしないで「お母さん、弟に叩かれた〜！」と言って弟の事を叱ってもらうようにしたり・・・。

でも、この場合は私が叩かれて困っていますが、お母さんに入ってもらっていました。最近弟が高校生になるのですが、弟はイライラして叩いてきます。だけど私は自分でなんとかしようと思うようになりました。そして弟はどんな気持ちがあるのか考えてみたりできるようになりました。

この前、お母さんと弟と一緒に買い物に行きました。その時に弟はイライラしていましたが、お母さんと一緒に〇〇君はきっとこうだからイライラしてるんだろうね、と考える事が出来るようになりました。だから自分もそういうのでイライラすることが減りました。

これからは保育士になった時に子ども達に勇気づけができるようになりたいです。APにもっと早く出会えていたらなあ。APに出会えてよかったです。ありがとうございました。（さくら 17歳）



💖 今回、AP講座を受けるというご縁に恵まれ、感謝しています。友人に誘われ何となくスタートしたものでしたが、親子関係をより良いものに変えてくれるという結果を得ることが出来ました。子どもと一緒に受講出来た事は良かったと思います。

DVD学習の中に出てきた「アリソンが歯磨きをしてベッドに入る」という課題を学んでいた時に、下の娘と同じだと感じ、次の回から同じ場所に居させてもらう事になりました。講座に参加しているというより、その場に居るというだけでしたが、反抗期に入りかけていて親の話を素直に聞かず、どのように話をすれば良いか悩んでいた親子関係が良くなっていきましました。講座で学んだことを生かし、言葉かけの仕方に気を付けるようになりました。そうするようにしていたら私の話を素直に聞いてくれるようになりました。更に上の娘も参加するようになり、子供たちを含めたそれぞれの関係性が良くなってきました。親子間、姉妹間での「境界線」が出来たのだと思います。私は数十年長く生きていく経験した事が多いだけで子どもたちの方がしっかりしているところも多くあり、お互いがそれぞれの意見や考えを認め合うことが出来るようになりました。親と子ども、それぞれの立場で感じて意見を出し合い学ぶという面白い体験をさせていただきありがとうございました。(S子)

💖 私はAP講座を受けて、お母さんとケンカをする事が少なくなりました。理由は、AP講座で親子としてではなく親友として接するということを習い、親友として接するようになったところ、ケンカがなくなり、前よりもより仲良くなれました。また、前の私は、男子などとなぐりあいのケンカばかりしていました。ですが、AP講座を受けたことで、ケンカなどに関わることが少なくなりました。男子にちょっとでもからかわれるとなぐりかかったり、言い返したり、また無視をしたりしていましたが、AP講座で習ったことを思い出し、言われたことに対し、言葉で言い返すのではなく、ほかの言い方で返すようにしました。そうしたらからかわれることも少なくなりました。このようにAP講座を受けたことで物事をやさしく受け止められるようになりました。(たんぼぼ 11歳)

💖 私はAP講座に計3回参加しました。内容は難しくなく、簡潔だと思いました。親とのコミュニケーションを学ぶことが出来ました。日常生活の会話の内容なので、身近に感じられました。私は中学に入学してから母と意見が合わないと感じることが多くなりました。AP講座では親子関係間の距離、話し方を学びました。とても役に立ちました。具体的に言うと、一方的に怒らずに話を聞くのが大切、親と自分との間に距離を取ることが大切という事です。親と距離を取り始めたら、親に相談すべきかの判断がつくようになりました。親と自分の考え方の違いに不満を感じることも減りました。AP講座は友人との関係など様々な事に応用できます。この講座に参加し、とても楽しかったです。母との付き合い方を見直す良い機会になりました。残りの講座の数は限られていますが、最後まで楽しみたいと思います。

(菜の花 14歳)

💖 私は母と兄と3人でAPを受けました。他にも2組の家族がいて、その中でも一番最年少でした。親子で受けて思った事は、今まで一緒にいて嫌だった事、嬉しかった事をすべて言い合えたと思った事です。他の家族も同じ意見だったので、色々な話を聞けて楽しかったです。APを受けていて「そうなんだ」とか、今まで知らない間にやっていた事がよくわかりました。

その中で一番印象に残ったのは、マイメッセージです。マイメッセージを教えてもらった時は、こうすれば自分の気持ちがいと相手に伝えられるとすごく思いました。一番大切だと思った事は、協力です。より良い家庭をつくるためには協力と努力が必要だと気づきました。もし自分に家族ができたなら、このAPを活かしたいと思いました。APを学んでから、少しずつ家族の事がわかるようになった気がします。(すみれ 15歳)

💖 親と子どもは平等であるということ、でも親は長く生きて自分より経験が多く、物事をたくさん知っている分、尊敬すべきことがわかりました。親子で受講したので、色々な事がよくわかりました。そしてみんなひとりひとり考え方、感じ方が違うことも理解できてよかったです。

学校ではこのような事を学べないので、学校でもこのような授業があればいいのになと思いました。

(れんげそう 17歳)



おめでとうございます。
新リーダーのご紹介
(敬称略)

- ☆福岡市: 磯部 一恵
- ☆福岡市: 白石 美代
- ☆さいたま市: 北内 智子
- ☆東京都: 石井 真智
- ☆東京都: 澤田 直子 (トレーナー)
- ☆福岡市: 八十田 有仁子
- ☆八王子市: 堀口 真澄
- ☆八王子市: 笹原 祐子

◎リーダー養成講座をされたトレーナーさんは、レポートの提出のサポートをお願いします。



NPO法人アクティブ・ペアレンティング共育サポートの活動報告

私たちは、毎月の定例会を福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」で行っています。この度「あすみん」に私たちの活動を認めていただき、「あすみん」の共催でワークショップ「ガミガミ言わずに育てる方法」を5月から4回シリーズで行うことになりました。

「あすみん」は4月より児童館が入居する新しいビルに移転しますので、そこで児童館を利用する子育て世代にAPのワークショップをアナウンスできることを嬉しく思っています。

また、昨年に引き続き妙法寺福岡分院でも5月より同じく4回シリーズで行います。妙法寺では、ワークショップに引き続き、2月より講座も行っており9名の方が受講されています。APに共感して下さる方々に支えられ、心から感謝しています。現在、ワークショップの告知方法など、有効な広報活動について検討中です。

理事長 佐藤 由美

八王子市 堀口 真澄

最近子どもに関するニュースでよく耳にするのはいじめ、自殺、夜中に遊ぶ子どもは事件に巻き込まれることが多いの3点で、私自身が複雑な気持ちになるニュースです。いじめについては、昔からあるとは思いますが、現在は陰湿で知能的であり悲しい気持ちもあります。なぜこんなことをするのかと疑問に感じます。自殺はいじめだけではなく、いろいろな理由があると思います。子どもが事件に巻き込まれるのも同じように「何故？」と考えます。すべてにおいて最終的に私が何故と感じる何故の内容は「親はどうしていたのだろうか？」という思いです。

実際にたいていの親はこれらに直面したときに、悲しみと何故気づけなかったのだろうかという後悔や自責の念など悩み苦しむと思います。少しでも多くの子どもたちをこの状況から遠ざけるには家庭教育が原点だと思います。日頃から子どもとコミュニケーションが取れ、子どもが親に話ができる(親が耳を傾ける)時間を少しでも多くとることができればいいなと思います。そこから自分の子どもの現状をうかがい、対処したりほめたりして、子どもの成長をも守っていくことが理想だと思います。AP講座はまさにこの現代には必要な内容だと思います。

地震お見舞い

熊本県、大分県は未だに地震が続いており、お亡くなりになった方や家屋の倒壊で家に帰れない方が何万人も避難生活を余儀なくされています。私にもリーダーの皆さまから、ご心配のメールも数件頂きました。ありがとうございました。

熊本、大分の皆さまが一日も早く地震が落ち着き、もとの生活に戻られるよう、心からお祈りしております。

季刊誌「リンク」ハロー フレンズでおなじみの
APジャパンの創始者、ジューン・シートさんが来日されます！

ジューンさんを歓迎し、皆さまと交流を深めたいと思っています。リーダーの皆さま、そして受講生の皆さまも一緒にジューンさんを囲むひとときを楽しみましょう。

◎ 日 程：5月12日 10時30分から12時30分まで

◎ 場 所：「あすみん」セミナールーム

福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4階（旧児童会館です）

◎ 参加費：1,000円（飲み物と写真込み）

◎ 当日のスケジュール

ジューンさんのお話を通訳を交えて1時間程度お願いしております。その後は参加者の皆さんと楽しい交流会を企画しています。ジューンさんにはじめてお会いする方も、そうでない方もいっしょにお喋りしましょう！リーダーさんは受講生の方々にお誘いの声をかけて下さい。

◎ 申し込みは、受講生の方は4月30日までに講座を担当したリーダーに、参加の旨をご連絡下さい。またリーダーは参加人数を5月7日までにAPジャパンまでお知らせ下さい。

♡ リーダー研修会のお知らせ in関東

日 程：6月11日（土曜日）10時から16時

場 所：ただいま検討中

参加費：5,000円

お忙しいとは思いますが、皆さまの参加をお願いします。新しい仲間が増えました！
申し込みはAPジャパン（野中）までお願いします。

読んでますか、ホン？
この春、おすすめの本

☆「子どもが巣立つということ」～この時代の難しさのなかで～
浜田寿美男著 ジャパンマシニスト社
発達心理学、法心理学者の著者の話は、子育てにも役立ちます。

☆「人生の意味の心理学」 アルフレット・アドラー 春秋社
今、大ブームのアドラー心理学を読んでみよう！

☆「親がラクになる叱らないでOK！な子育て」 クレヨンハウス出版
シュタイナー、モンテッソーリ、整体的子育てからのヒントが満載！



APジャパンからのお願い

☆ 講座が始まりましたらすぐ受講生の名簿をお送り下さい。その際には郵便番号とお名前にふりがなつけてお送り下さい。また転居された場合はご連絡下さい。

☆ 年会費はリーダー資格登録年会費(6,000円) トレーナー登録年会費(10,000円) となっております。この年会費にはリンク購読料も含まれております。お間違いのないようお願いいたします。登録年会費はできるだけ年内に納入をお願い致します。

☆リーダーの方で退会される場合にはかならずご連絡下さい。

☆

☆ APジャパンの住所は今までと同じですが、住所内(事務所)には常駐しておりません。テキストの注文や受講生名簿の送付などのAPジャパンへのご連絡はできるだけ携帯電話あるいはメールでお願いします。

☆ テキスト(4,000円) やキット(50,000円) などの教材は、講座を受講しなくても購入することができます。その場合は講座を開くことはできません。購入のお申し込みはAPジャパン事務所までお願いします。

APジャパン事務所(代表 野中 利子)

☎: 携帯電話: 090-8391-3196

携帯メール toshiko-mama-718@ezweb.ne.jp

P Cメール apjapan@activeparenting.or.jp

あとがき:

千葉の溝口さんから「親子でAP!」の記事を送っていただいた。十代の子どもと親でAPを学ぶのはAPジャパン始まって以来、初めての試みだと思う。親子でAP講座を受講されるのはどうだろうと相談を受けたときは、思春期の子どもと親の関係を考えると、少し難しいかもしれないと思った。が、余計な心配だったようだ。溝口さんはとてもうまくリードされたのではないだろうか。私も2014年に親子3代で受講された経験がある。若いお母さんのお腹には赤ちゃんがいて、若いお母さんの母親と二人で受講された。たぶんお腹の赤ちゃんもAPをしっかり聞いていたと思う。出産後、若いお母さんはリーダーの資格を取り、今は講座を開いている。私が30年前にジューンさんの講座を受講したときはご夫婦が何組かいっしょだった。国際結婚された方が多かったように記憶している。これまでご夫婦で受講された方も数組おられる。手探り状態で子育てするわけだから夫婦で受講するのはとても有意義だと思う。例えば、できるだけご家族で受講していただけるように、ご夫婦で、あるいは親子でならば、受講料をお安くするというのはどうだろう? 今そんなことを考えています。

APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>



「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2016 発行者 APジャパン
代表 野中 利子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5(事務所)

電話: 090-8391-3196

FAX: 092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

「リンク」は年間4回の発行で2,000円です。